

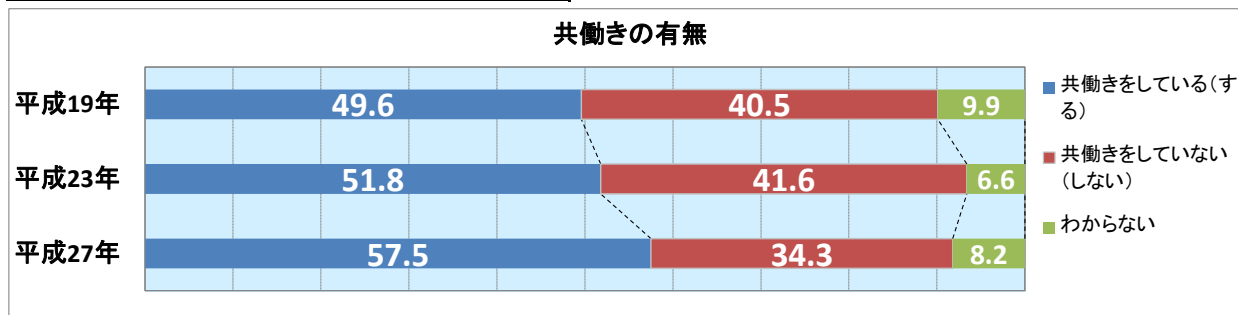
◆ 家庭生活について

問9 あなたは、現在共働きをしていますか？未婚の方は、結婚したら共働きをしたいと思いますか？また、配偶者（妻あるいは夫）が退職または死別の方は、在職中または存命中の状況でお答えください。

(%)

	平成19年	平成23年	平成27年
共働きをしている(する)	49.6	51.8	57.5
共働きをしていない(しない)	40.5	41.6	34.3
わからない	9.9	6.6	8.2
計	100	100.0	100.0

「共働きをしている(する)」とする割合が増加している。

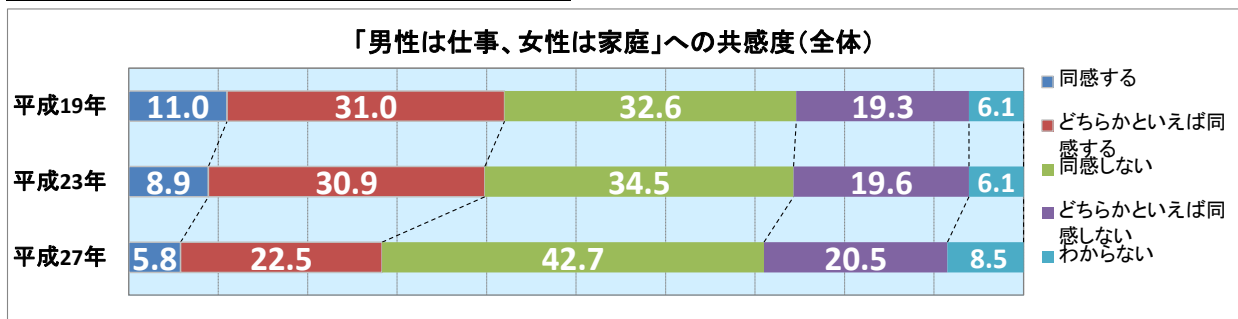


問10 「男性は仕事、女性は家庭」といった考え方がありますが、あなたはこの考え方に同感しますか。

《全体》 (%)

	平成19年	平成23年	平成27年
同感する	11.0	8.9	5.8
どちらかといえば同感す	31.0	30.9	22.5
同感しない	32.6	34.5	42.7
どちらかといえば同感しない	19.3	19.6	20.5
わからない	6.1	6.1	8.5
計	100.0	100.0	100.0

「男性は仕事、女性は家庭」という考え方に「同感する」「どちらかといえば同感する」とする割合が減少し、「同感しない」「どちらかといえば同感しない」とする割合が増加している。固定的性別役割分担意識は少しずつ変化している。

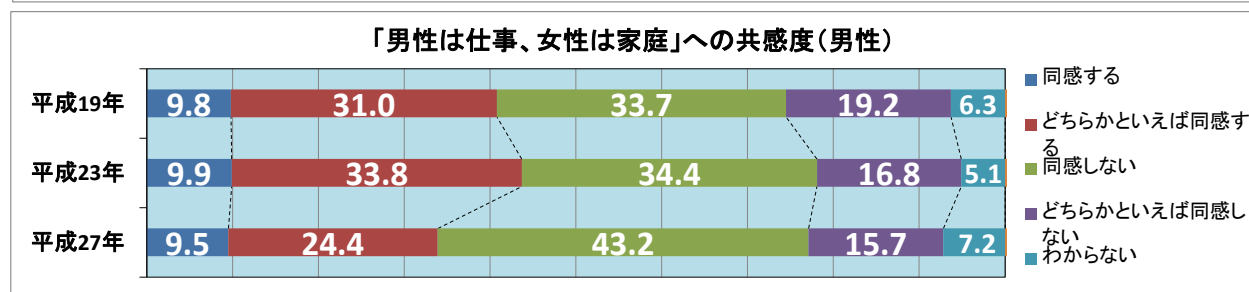
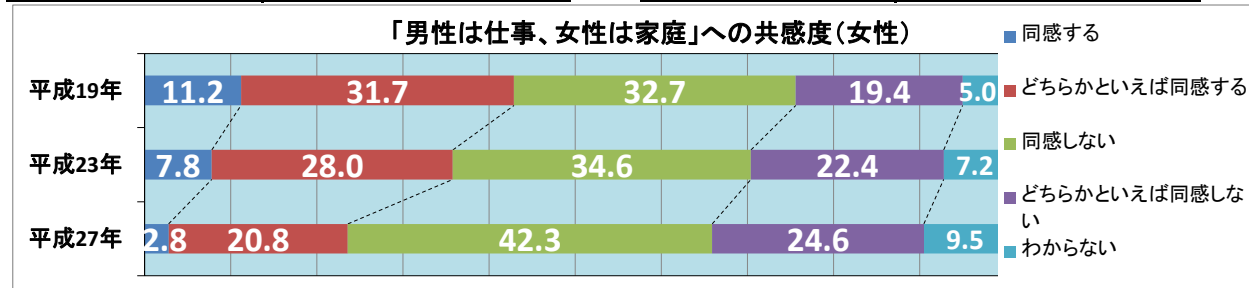


《女性》 (%)

	平成19年	平成23年	平成27年
同感する	11.2	7.8	2.8
どちらかといえば同感す	31.7	28.0	20.8
同感しない	32.7	34.6	42.3
どちらかといえば同感しない	19.4	22.4	24.6
わからない	5.0	7.2	9.5
計	100.0	100.0	100.0

《男性》 (%)

	平成19年	平成23年	平成27年
同感する	9.8	9.9	9.5
どちらかといえば同感す	31.0	33.8	24.4
同感しない	33.7	34.4	43.2
どちらかといえば同感しない	19.2	16.8	15.7
わからない	6.3	5.1	7.2
計	100.0	100.0	100.0

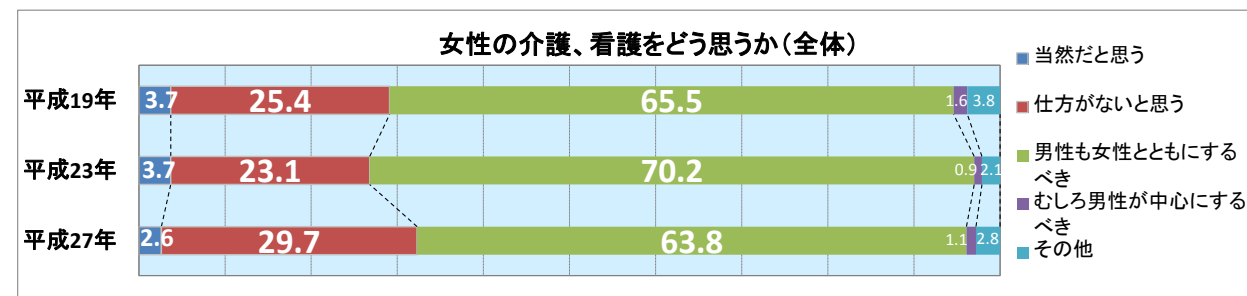


**問14 現在、家庭で介護・看病を女性がすることの多い現状について、あなたはどのように思いますか？**

《全体》 (%)

	平成19年	平成23年	平成27年
当然だと思う	3.7	3.7	2.6
仕方がないと思う	25.4	23.1	29.7
男性も女性とともにするべき	65.5	70.2	63.8
むしろ男性が中心にするべき	1.6	0.9	1.1
その他	3.8	2.1	2.8
計	100.0	100.0	100.0

女性が介護・看病する考え方について、「当然だと思う」とする割合が減少し、一方で「仕方がないと思う」とする割合が女性、男性とも増加している。

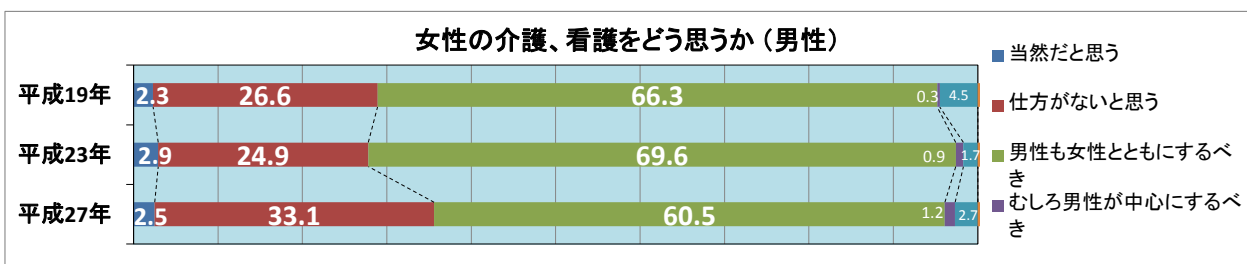
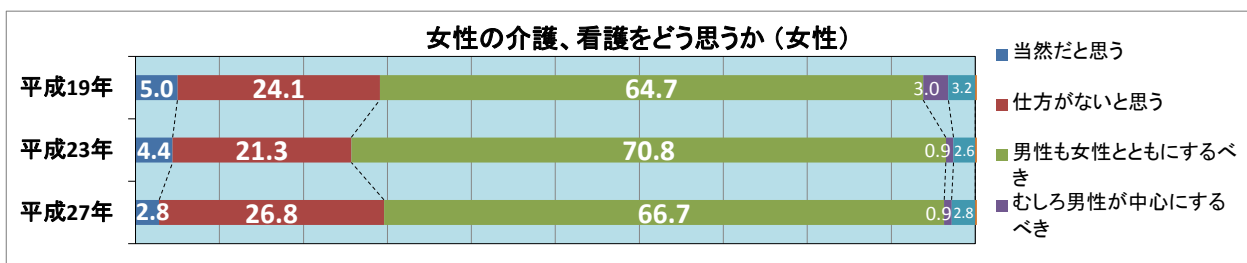


《女性》 (%)

	平成19年	平成23年	平成27年
当然だと思う	5.0	4.4	2.8
仕方がないと思う	24.1	21.3	26.8
男性も女性とともにするべき	64.7	70.8	66.7
むしろ男性が中心にするべき	3.0	0.9	0.9
その他	3.2	2.6	2.8
計	100.0	100.0	100.0

《男性》 (%)

	平成19年	平成23年	平成27年
当然だと思う	2.3	2.9	2.5
仕方がないと思う	26.6	24.9	33.1
男性も女性とともにするべき	66.3	69.6	60.5
むしろ男性が中心にするべき	0.3	0.9	1.2
その他	4.5	1.7	2.7
計	100.0	100.0	100.0

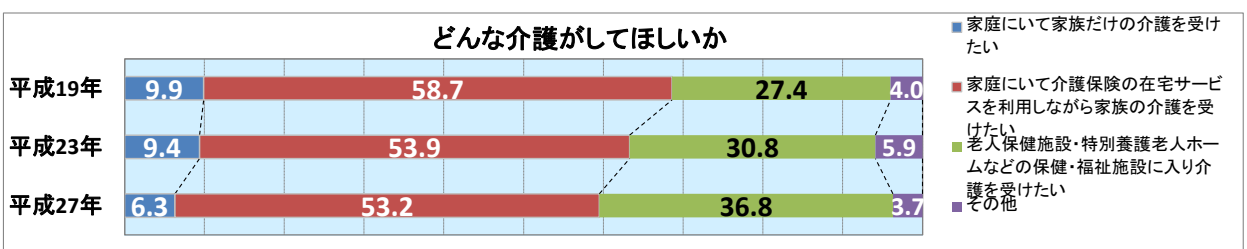


**問15 あなた自身に介護が必要になった場合、どんな介護をしてほしいですか？**

(%)

	平成19年	平成23年	平成27年
家庭において家族だけの介護を受けたい	9.9	9.4	6.3
家庭において介護保険の在宅サービスを利用しながら家族の介護を受けたい	58.7	53.9	53.2
老人保健施設・特別養護老人ホームなどの保健・福祉施設に入り介護を受けたい	27.4	30.8	36.8
その他	4.0	5.9	3.7
計	100.0	100.0	100.0

女性が介護・看病する考え方について、「家庭において家族だけの介護を受けたい」「家庭において介護保険の在宅サービスを利用しながら家族の介護を受けたい」とする割合が減少し、「老人保健施設・特別養護老人ホームなどの保健・福祉施設に入り介護を受けたい」とする割合が増加している。家族への負担をかけたくない気持ちが表れている。

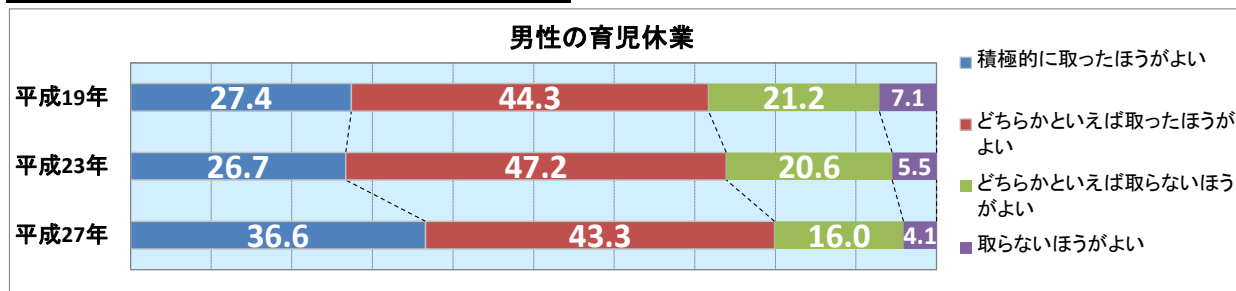


問16 ① あなたは男性が育児休業を取得することについてどう思いますか？

(%)

	平成19年	平成23年	平成27年
積極的に取ったほうがよい	27.4	26.7	36.6
どちらかといえば取ったほうがよい	44.3	47.2	43.3
どちらかといえば取らないほうがよい	21.2	20.6	16.0
取らないほうがよい	7.1	5.5	4.1
計	100.0	100.0	100.0

男性の育児休業の取得について、「積極的に取ったほうがよい」とする割合が増加している。取得者の割合が低いため、整備された制度を積極的に利用できるよう、職場の環境、雰囲気、意識づくりを行っていくことが必要である。

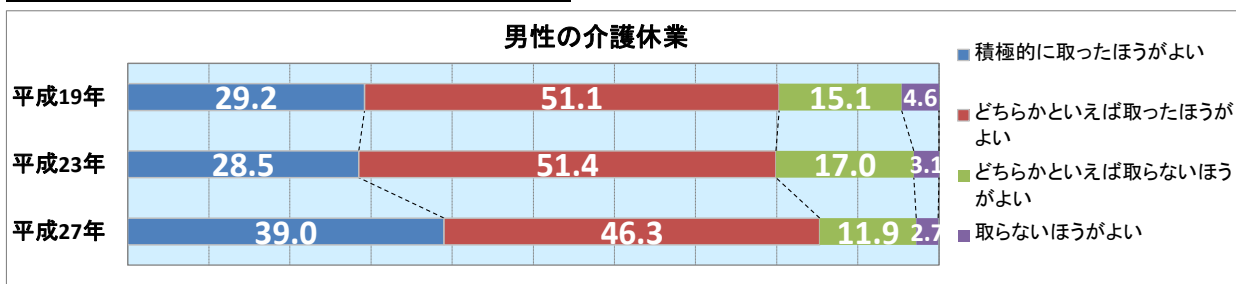


問16 ② あなたは男性が介護休業を取得することについてどう思いますか？

(%)

	平成19年	平成23年	平成27年
積極的に取ったほうがよい	29.2	28.5	39.0
どちらかといえば取ったほうがよい	51.1	51.4	46.3
どちらかといえば取らないほうがよい	15.1	17.0	11.9
取らないほうがよい	4.6	3.1	2.7
計	100.0	100.0	99.9

男性の介護休業の取得について、「積極的に取ったほうがよい」とする割合が増加している。取得者の割合が低いため、整備された制度を積極的に利用できるよう、職場の環境、雰囲気、意識づくりを行っていくことが必要である。



◆ 異性に対する暴力について

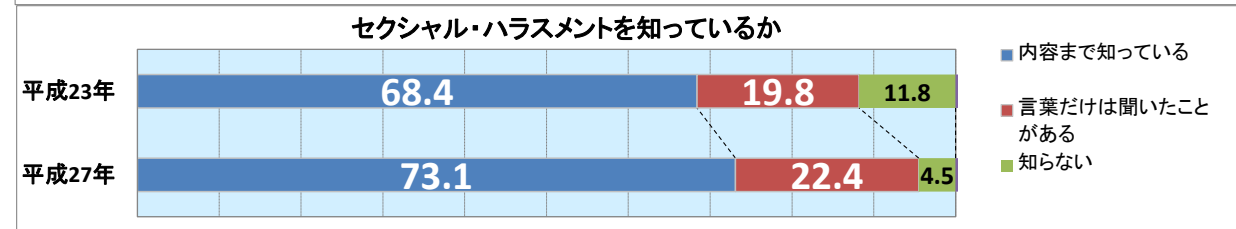
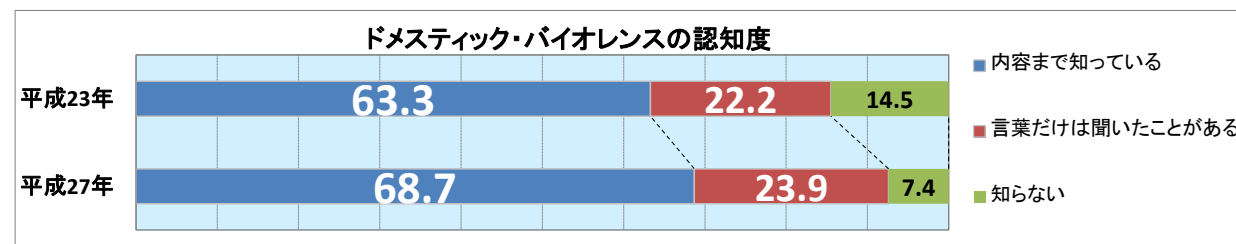
問17 あなたは、「ドメスティック・バイオレンス」や「セクシャル・ハラスメント」を知っていますか？

《ドメスティック・バイオレンス》 (%)

	平成19年	平成23年	平成27年
内容まで知っている	63.3	63.3	68.7
言葉だけは聞いたことがある	22.2	22.2	23.9
知らない	14.5	14.5	7.4
計	0.0	100.0	100.0

(%)

	平成19年	平成23年	平成27年
内容まで知っている	68.4	68.4	73.1
言葉だけは聞いたことがある	19.8	19.8	22.4
知らない	11.8	11.8	4.5
計	0.0	100.0	100.0



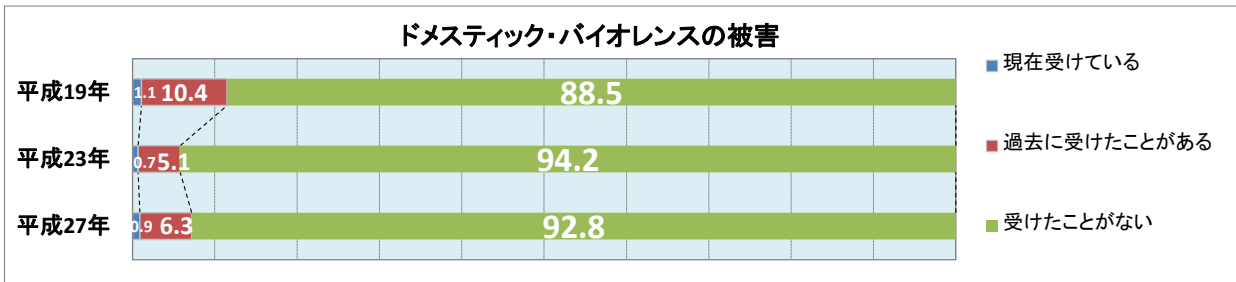
「ドメスティック・バイオレンス」、「セクシャル・ハラスメント」の認知度は、ともに高くなっている。

問18 あなたは、配偶者や親しい異性(恋人等)から、ドメスティック・バイオレンスを受けたことがありますか？

(%)

	平成19年	平成23年	平成27年
現在受けている	1.1	0.7	0.9
過去に受けたことがある	10.4	5.1	6.3
受けたことがない	88.5	94.2	92.8
計	100.0	100.0	100.0

被害の件数としては、大幅な増加や減少は見られない。

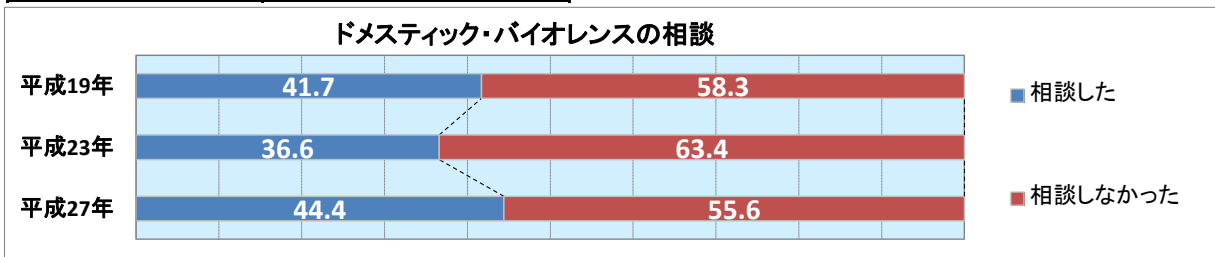


問18-1 ドメスティック・バイオレンスを受けたことを誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか？

(%)

	平成19年	平成23年	平成27年
相談した	41.7	36.6	44.4
相談しなかった	58.3	63.4	55.6
計	100.0	100.0	100.0

「相談しなかった」とする割合が未だに高い状況であり、問題が外に表れにくいことがわかる。

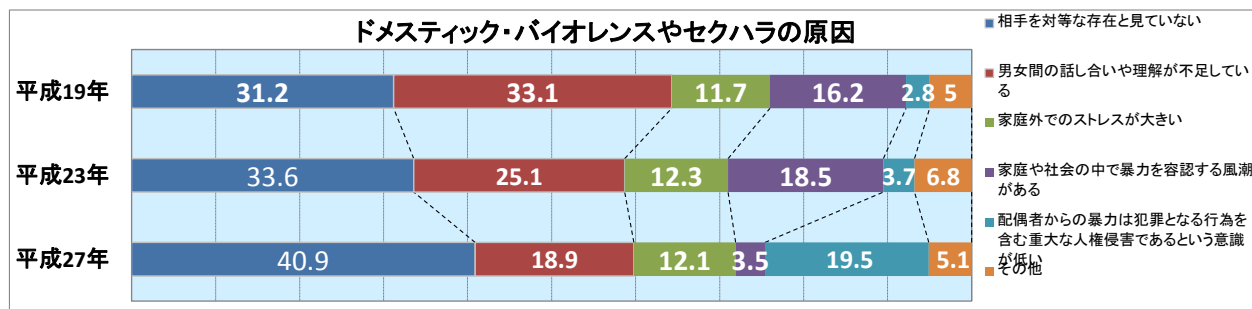


問19 ドメスティック・バイオレンスやセクシャル・ハラスメントの起こる原因は、どこにあると思いますか？

(%)

	平成19年	平成23年	平成27年
相手を対等な存在と見ていない	31.2	33.6	40.9
男女間の話し合いや理解が不足している	33.1	25.1	18.9
家庭外でのストレスが大きい	11.7	12.3	12.1
家庭や社会の中で暴力を容認する風潮がある	16.2	18.5	3.5
配偶者からの暴力は犯罪となる行為を含む重大な人権侵害であるという意識が低い	2.8	3.7	19.5
その他	5	6.8	5.1
計	100.0	100.0	100.0

「相手を対等な存在と見ていない」、「配偶者からの暴力は犯罪となる行為を含む重大な人権侵害であるという意識が低い」とする割合が増加し、「家庭や社会の中で暴力を容認する風潮がある」とする割合が減少している。啓発を行い、男女間のあらゆる暴力を許さない環境と意識づくりを進める必要がある。

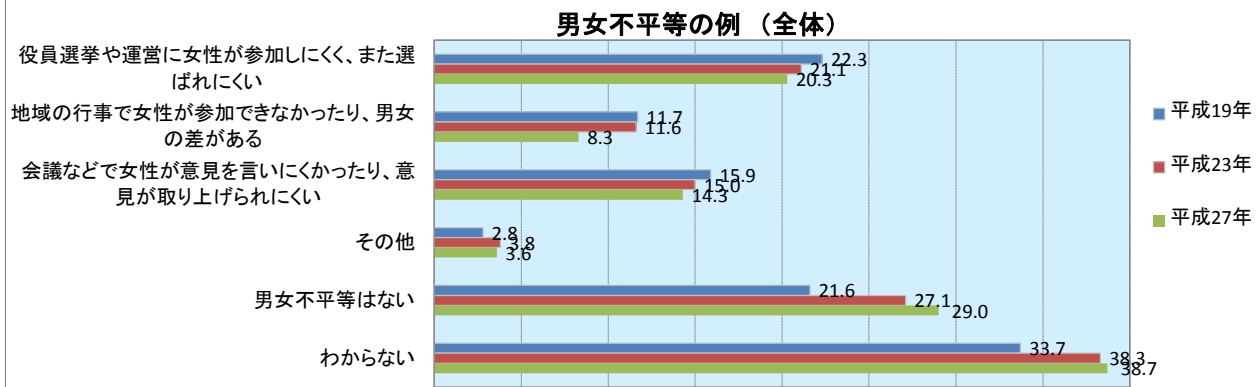


◆ 地域活動に関して

問22 あなたが住んでいる地域の行事等に男女不平等なことがありますか？（複数回答可）

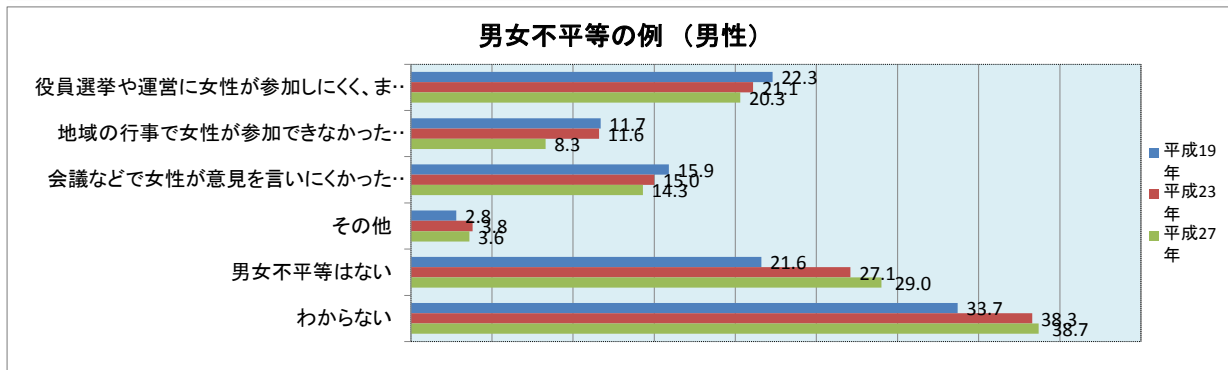
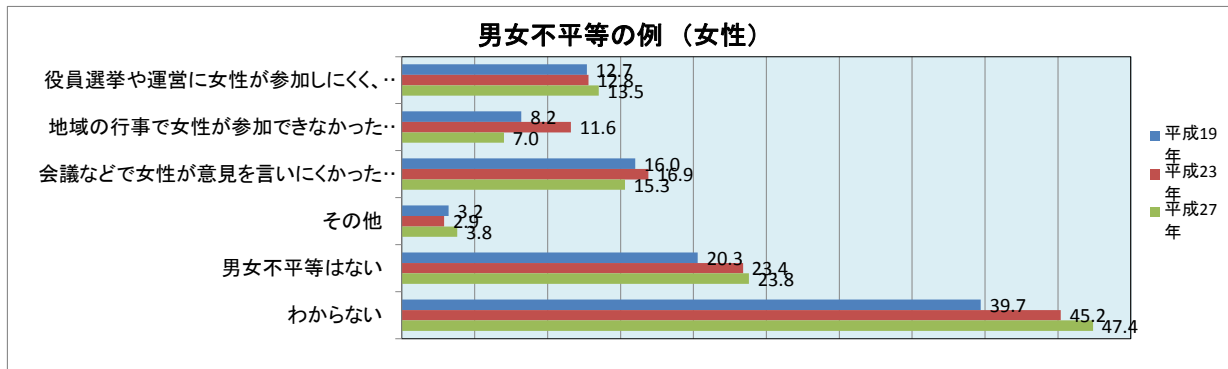
《全体》	(MA)		(%)
	平成19年	平成23年	平成27年
役員選挙や運営に女性が参加しにくく、また選ばれにくい	22.3	21.1	20.3
地域の行事で女性が参加できなかったり、男女の差がある	11.7	11.6	8.3
会議などで女性が意見を言いにくかったり、意見が取り上げられにくい	15.9	15.0	14.3
その他	2.8	3.8	3.6
男女不平等はない	21.6	27.1	29.0
わからない	33.7	38.3	38.7

地域の行事等に関しては、「男女不平等はない」とする意見が、女性・男性とも少しずつ高くなってきている。  
また、「男女不平等はない」とする意見は、女性より男性に多く見られる。



《女性》	(MA)		(%)
	平成19年	平成23年	平成27年
役員選挙や運営に女性が参加しにくく、また選ばれにくい	12.7	12.8	13.5
地域の行事で女性が参加できなかったり、男女の差がある	8.2	11.6	7.0
会議などで女性が意見を言いにくかったり、意見が取り上げられにくい	16.0	16.9	15.3
その他	3.2	2.9	3.8
男女不平等はない	20.3	23.4	23.8
わからない	39.7	45.2	47.4

《男性》	(MA)		(%)
	平成19年	平成23年	平成27年
役員選挙や運営に女性が参加しにくく、また選ばれにくい	22.3	21.1	20.3
地域の行事で女性が参加できなかったり、男女の差がある	11.7	11.6	8.3
会議などで女性が意見を言いにくかったり、意見が取り上げられにくい	15.9	15.0	14.3
その他	2.8	3.8	3.6
男女不平等はない	21.6	27.1	29.0
わからない	33.7	38.3	38.7



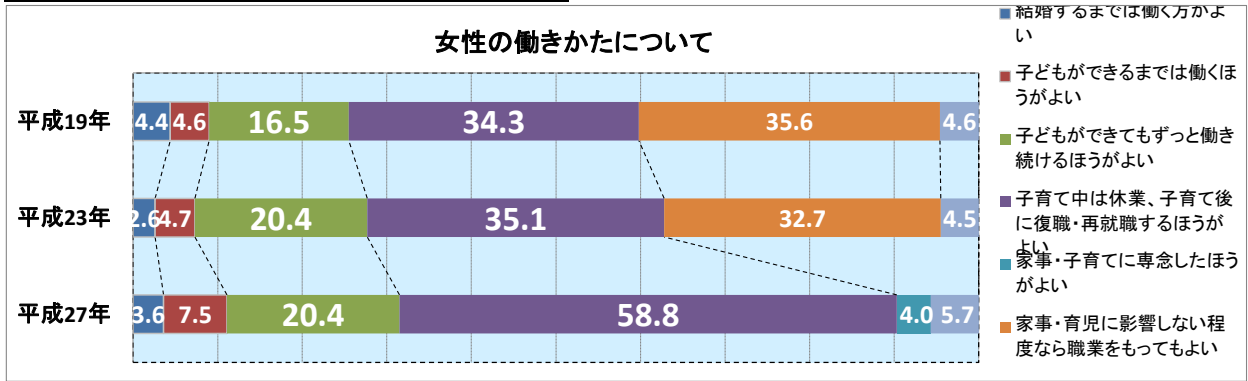
◆ 職業に関する意識について

問25 あなたは、女性の働き方について、次のどれが望ましいと思いますか？

25女性の働きかたについて × 1性別

	(MA) (%)		
	平成19年	平成23年	平成27年
結婚するまでは働く方がよい	4.4	2.6	3.6
子どもができるまでは働くほうがよい	4.6	4.7	7.5
子どもができてもずっと働き続けるほうがよい	16.5	20.4	20.4
子育て中は休業、子育て後に復職・再就職するほうがよい	34.3	35.1	58.8
家事・子育てに専念したほうがよい			4.0
家事・育児に影響しない程度なら職業をもっとよい	35.6	32.7	
その他	4.6	4.5	5.7
計	100.0	100.0	100.0

「子育て中は休業、子育て後に復職・再就職するほうがよい」とする割合が大幅に増加している。「家事・子育てに専念したほうがよい」とする割合が低い結果となったことは、固定的性別役割分担意識が解消に進んでいると考えられるが、「子どもができてもずっと働き続けるほうがよい」とする割合が約2割と変化がない。現実の生活では、家事・育児などは女性が中心に担う考え方が根強い結果となっている。



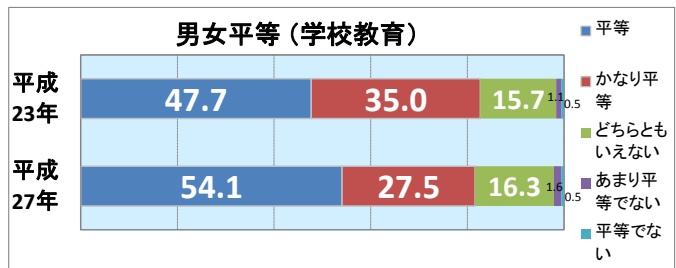
◆ 男女平等に関して

問30 あなたは次のそれぞれの分野で、どの程度男女平等になっていると思いますか？

「平等」と「かなり平等」を併せた割合が、前回と比較すると減少している。あらゆる分野において、男女が平等に参画するためには、社会通念や習慣の背景にある固定的性別役割分担意識の解消や、家庭における家事、育児、介護など身近なところから意識改革を進めていくことが必要となっている。

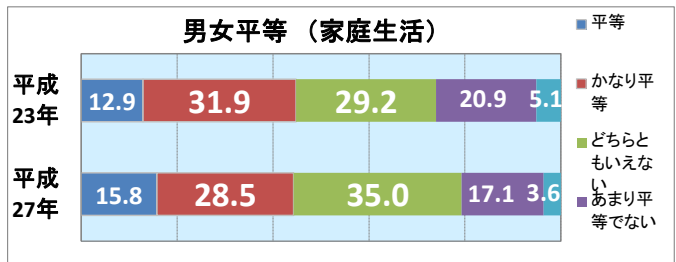
《学校教育》 (%)

	平成19年	平成23年	平成27年
平等		47.7	54.1
かなり平等		35.0	27.5
どちらともいえない		15.7	16.3
あまり平等でない		1.1	1.6
平等でない		0.5	0.5
計	0.0	100.0	100.0



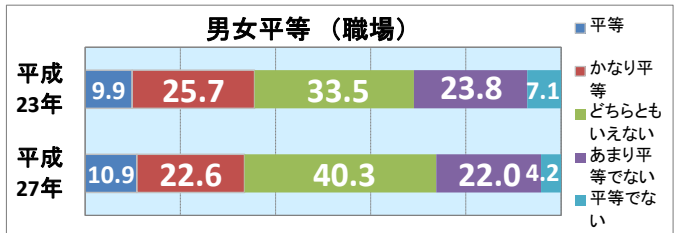
《家庭生活》 (%)

	平成19年	平成23年	平成27年
平等		12.9	15.8
かなり平等		31.9	28.5
どちらともいえない		29.2	35.0
あまり平等でない		20.9	17.1
平等でない		5.1	3.6
計	0.0	100.0	100.0



《職場》 (%)

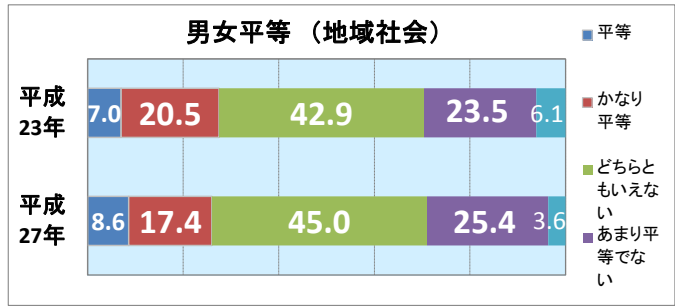
	平成19年	平成23年	平成27年
平等		9.9	10.9
かなり平等		25.7	22.6
どちらともいえない		33.5	40.3
あまり平等でない		23.8	22.0
平等でない		7.1	4.2
計	0.0	100.0	100.0





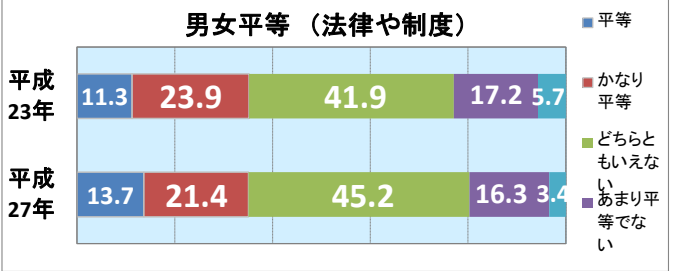
《地域社会》 (％)

	平成19年	平成23年	平成27年
平等		7.0	8.6
かなり平等		20.5	17.4
どちらともいえない		42.9	45.0
あまり平等でない		23.5	25.4
平等でない		6.1	3.6
計	0.0	100.0	100.0



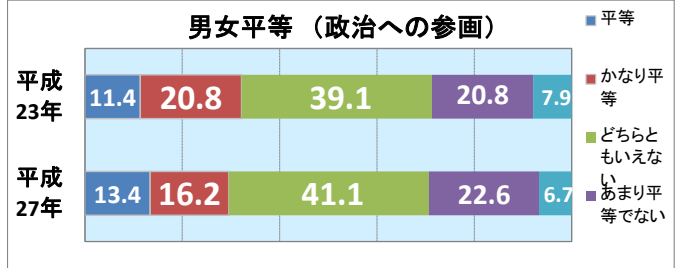
《法律や制度》 (％)

	平成19年	平成23年	平成27年
平等		11.3	13.7
かなり平等		23.9	21.4
どちらともいえない		41.9	45.2
あまり平等でない		17.2	16.3
平等でない		5.7	3.4
計	0.0	100.0	100.0



《政治への参画》 (％)

	平成19年	平成23年	平成27年
平等		11.4	13.4
かなり平等		20.8	16.2
どちらともいえない		39.1	41.1
あまり平等でない		20.8	22.6
平等でない		7.9	6.7
計	0.0	100.0	100.0

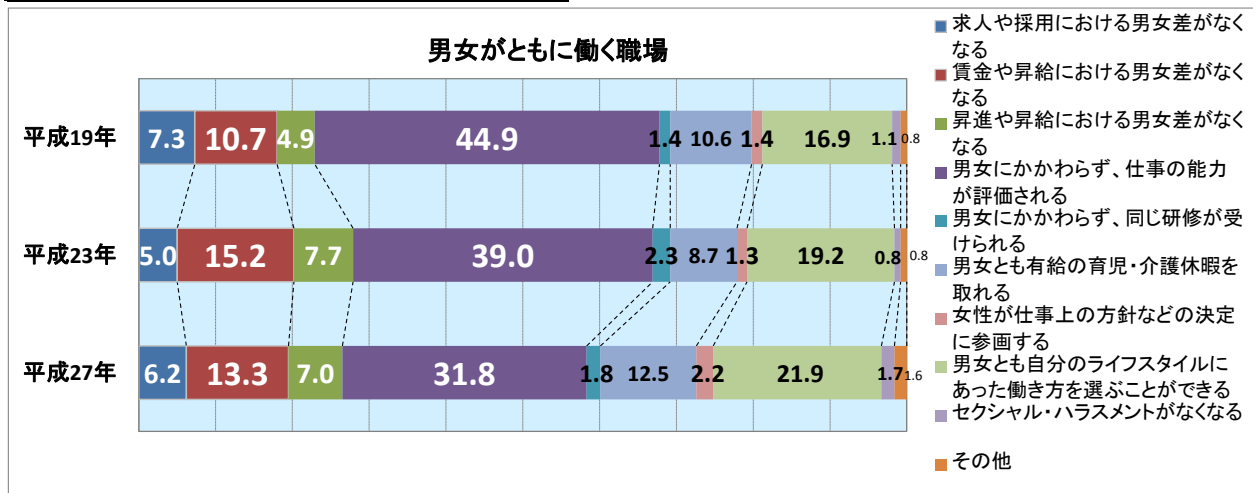


問31 あなたは、男女がともに働く職場においてどのようなことが実現すればよいと思いますか？

(MA) (％)

	平成19年	平成23年	平成27年
求人や採用における男女差がなくなる	7.3	5.0	6.2
賃金や昇給における男女差がなくなる	10.7	15.2	13.3
昇進や昇給における男女差がなくなる	4.9	7.7	7.0
男女にかかわらず、仕事の能力が評価される	44.9	39.0	31.8
男女にかかわらず、同じ研修が受けられる	1.4	2.3	1.8
男女とも有給の育児・介護休暇を取れる	10.6	8.7	12.5
女性が仕事上の方針などの決定に参画する	1.4	1.3	2.2
男女とも自分のライフスタイルにあった働き方を選ぶことができる	16.9	19.2	21.9
セクシャル・ハラスメントがなくなる	1.1	0.8	1.7
その他	0.8	0.8	1.6
計	100.0	100.0	100.0

「男女とも有給の育児・介護休暇を取れる」、「男女とも自分のライフスタイルにあった働き方を選ぶことができる」とする割合が増加している。

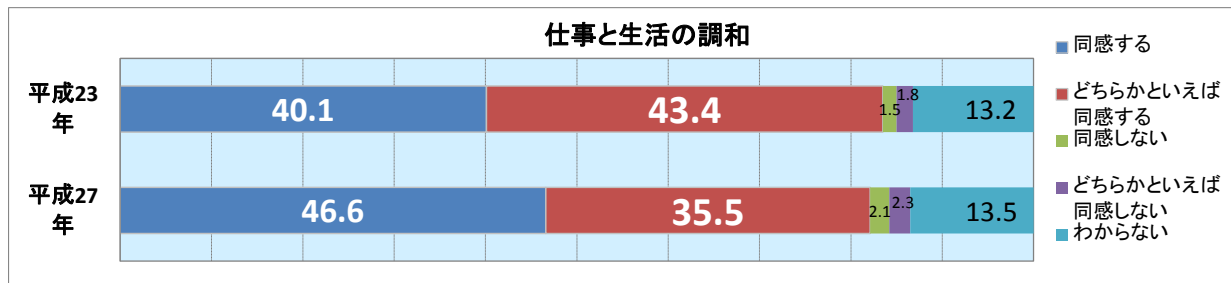


◆ 仕事と生活の調和(ワークライフバランス)について

問32 多様な働き方が選択でき、仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)がとれるという考え方について、あなたはこの考え方に同感しますか？

	平成19年	平成23年	平成27年
同感する		40.1	46.6
どちらかといえば同感す		43.4	35.5
同感しない		1.5	2.1
どちらかといえば同感し		1.8	2.3
わからない		13.2	13.5
計	0.0	100.0	100.0

「仕事と生活の調和がとれる」という考え方に「同感する」「どちらかといえば同感する」とする割合が減少しているものの、約8割を占めている。

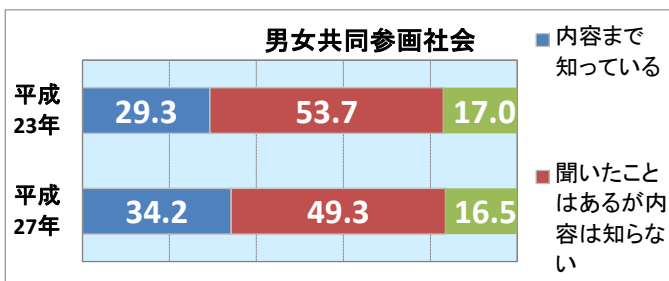


◆ 男女共同参画社会づくりについて

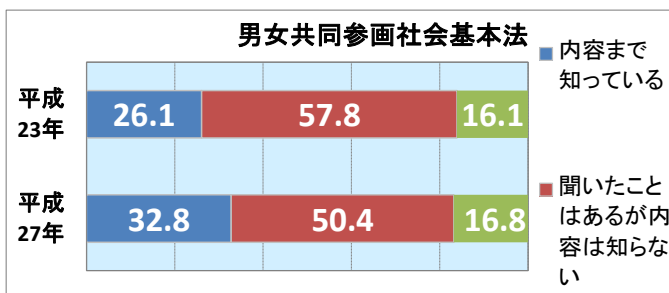
問35 次の男女共同参画社会に関する言葉を知っていますか？

それぞれの認知度について、「内容まで知っている」とする割合が高くなっている。「推進計画」、「男女共同参画センター」について認知割合が低く、今後一層の周知啓発を行うことが必要である。

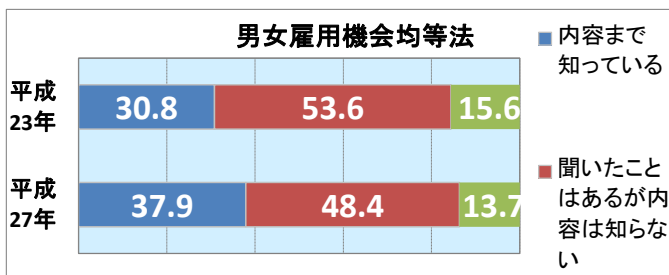
	平成19年	平成23年	平成27年
内容まで知っている		29.3	34.2
聞いたことはあるが内容は知らない		53.7	49.3
まったく知らない		17.0	16.5
計	0.0	100.0	100.0



	平成19年	平成23年	平成27年
内容まで知っている		26.1	32.8
聞いたことはあるが内容は知らない		57.8	50.4
まったく知らない		16.1	16.8
計	0.0	100.0	100.0



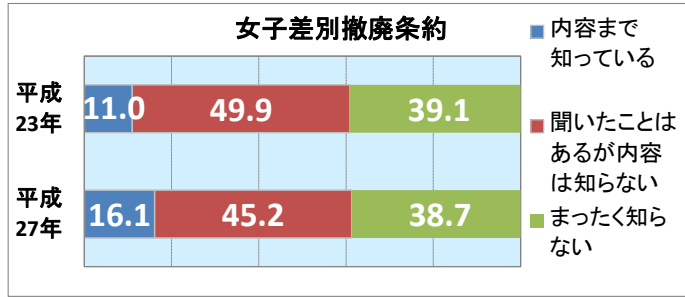
	平成19年	平成23年	平成27年
内容まで知っている		30.8	37.9
聞いたことはあるが内容は知らない		53.6	48.4
まったく知らない		15.6	13.7
計	0.0	100.0	100.0





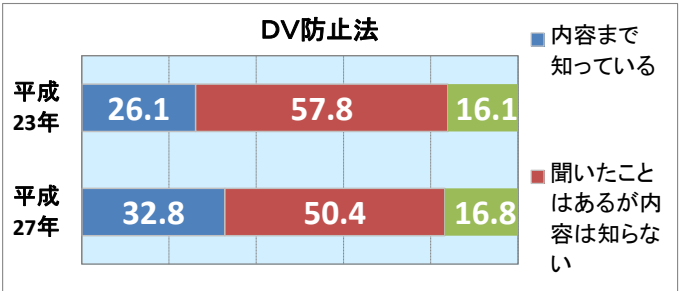
《女子差別撤廃条約》 (％)

	平成19年	平成23年	平成27年
内容まで知っている		11.0	16.1
聞いたことはあるが内容は知らない		49.9	45.2
まったく知らない		39.1	38.7
計	0.0	100.0	100.0



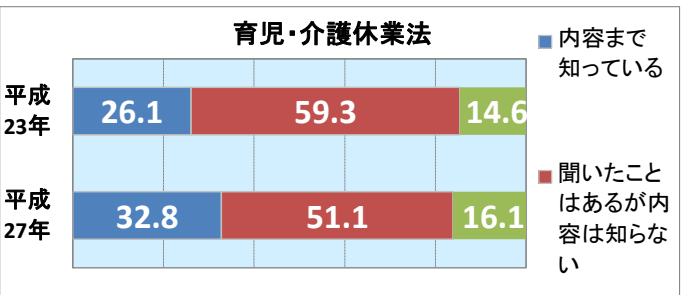
《DV防止法》 (％)

	平成19年	平成23年	平成27年
内容まで知っている		26.1	32.8
聞いたことはあるが内容は知らない		57.8	50.4
まったく知らない		16.1	16.8
計	0.0	100.0	100.0



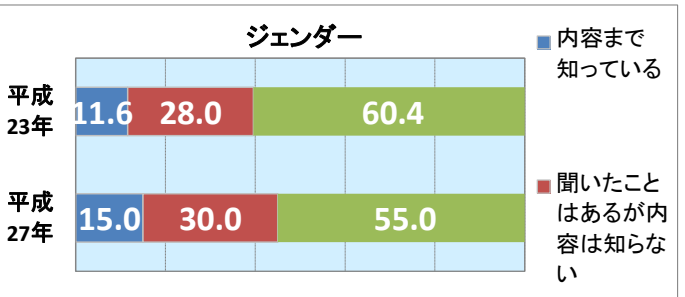
《育児・介護休業法》 (％)

	平成19年	平成23年	平成27年
内容まで知っている		26.1	32.8
聞いたことはあるが内容は知らない		59.3	51.1
まったく知らない		14.6	16.1
計	0.0	100.0	100.0



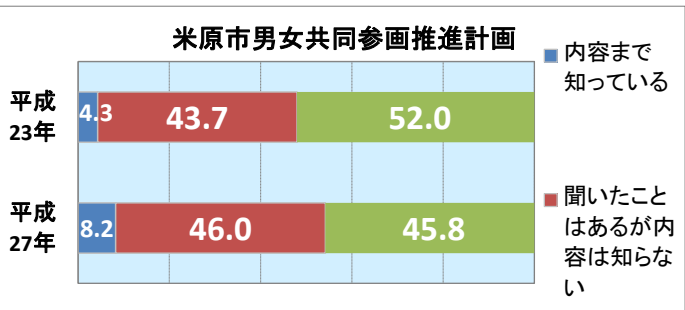
《ジェンダー》 (％)

	平成19年	平成23年	平成27年
内容まで知っている		11.6	15.0
聞いたことはあるが内容は知らない		28.0	30.0
まったく知らない		60.4	55.0
計	0.0	100.0	100.0



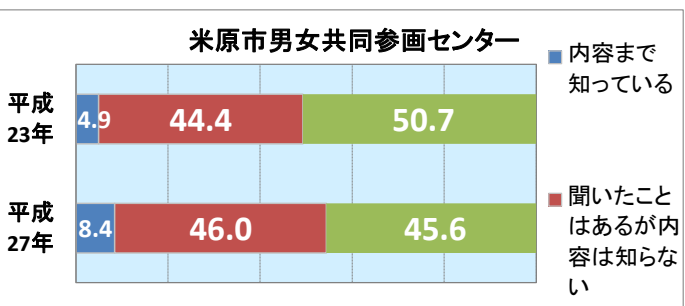
《米原市男女共同参画推進計画》 (％)

	平成19年	平成23年	平成27年
内容まで知っている		4.3	8.2
聞いたことはあるが内容は知らない		43.7	46.0
まったく知らない		52.0	45.8
計	0.0	100.0	100.0



《米原市男女共同参画センター》 (％)

	平成19年	平成23年	平成27年
内容まで知っている		4.9	8.4
聞いたことはあるが内容は知らない		44.4	46.0
まったく知らない		50.7	45.6
計	0.0	100.0	100.0



問36 男女共同参画社会の実現に向けて、今後、どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか？

(%)

	平成19年	平成23年	平成27年
男女共同参画意識を育てるための学校教育を充実する		26.6	26.7
生涯学習の場で男女平等と相互理解について、学習や情報提供を充実する		23.3	18.8
職場における男女の格差をなくすよう、企業に働きかけ		28.7	26.8
男女とも育児に関わりやすい職場の体制づくりを進める		36.5	36.5
民間企業等の管理職に女性の登用が進むよう支援する			5.9
安心して働くための保育サービス、学童保育所を充実する		50.7	38.9
高齢者や病人に対する介護サービスを充実する		53.6	33.9
子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する			30.4
子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する			27.1
市政の方針決定の場である審議会等の委員へ女性を積極的に登用する		7.3	7.0
広報紙やパンフレットなどで、男女共同参画社会への理解を得る啓発をする		10.3	5.5
就労や女性の自立のための相談業務を充実する		9.7	4.2
女性や男性の生き方や悩みに関する相談の場を提供する			7.1
各種活動のリーダーとなる女性を養成する		7.2	5.4
その他		1.6	1.7

「男女とも育児に関わりやすい職場の体制づくりを進める」「安心して働くための保育サービス、学童保育所を充実する」「高齢者や病人に対する介護サービスを充実する」「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」子育てや介護に関する項目が高い割合を占めている。

男女共同参画社会の実現に向けて

